

(議題2)

第5次病院構造改革推進方策

Ⅲ-3-(1)

抜本的な経営改革に係る取組

(議題2-1)

# 兵庫県立病院経営対策委員会 について

# 01 兵庫県立病院経営対策委員会（概要）

## 経営改善に向けた取組状況

- 物価高騰や賃金上昇等により今後も厳しい経営環境が見込まれることから、[県立病院経営対策委員会を立ち上げ](#)、更なる経営改善策を検討中。

## 県立病院経営対策委員会

区分	委員	略歴・専門分野
病院経営	井上 貴裕	千葉大学医学部附属病院 副病院長 同・病院経営管理学研究センター長
	小林 大介	富山大学附属病院地域医療総合支援学講座 客員准教授 兵庫県地域医療構想アドバイザー
企業経営	高橋 潔弘	RSM清和監査法人 パートナー（公認会計士）
運営実務	中島 雄一	大原記念倉敷中央病院機構倉敷中央病院 経営企画部長
	齋藤 哲哉	福井県済生会病院 事務部長

## ●委員会開催状況

区分	日程	議論の内容
第1回	7月12日	県立病院全体の経営状況と今後の収支見込 各病院の診療機能と経営上の課題
第2回	9月11日	各病院の収支改善策についての意見交換・議論等

# 01 兵庫県立病院経営対策委員会（概要）

- 第2回委員会までに議論された、各病院の新たな収支改善策の年平均改善額：約20億円
- 経常赤字の大幅な圧縮、早期の黒字基調への転換を目指し、次回以降の委員会で費用削減を中心に更なる抜本的改善策を議論（報告書は令和6年度中にとりまとめ予定）

## 第2回委員会までに議論された新たな経営改善による効果額

（単位：百万円）

区分	年平均改善額	主なもの
尼崎	115	稼働率・加算入院料算定率ともに低い救急病棟の病床を休止 △4床（20→16床）
西宮	183	手術枠の増加による収益の確保（整形外科・耳鼻咽喉科・形成外科）
加古川	306	一般病棟の1病棟休止、障害者病棟への1病棟転換
はり姫	592	休日の診療機能充実による病床稼働率向上（リハビリ・栄養指導/MRI/CT等の実施）
丹波	129	院長等訪問による前方後方連携の強化による集患の強化
淡路	38	病棟薬剤実施加算の取得による収益の確保
こころ	145	精神科救急患者受入れの拡大、児童思春期病棟の診療時間延長（平日4時間）
こども	58	クラウドファンディングの導入、寄付メニューの作成による寄附しやすい環境整備
がん	454	新病院開院を契機とした新規患者獲得への取組強化
合計	2,020	

(議題2-2)

兵庫県立粒子線医療センター  
のあり方検討委員会について

# 02 兵庫県立粒子線医療センターあり方検討委員会（概要）

## 粒子線医療センターについて

- 平成13年4月に播磨科学公園都市内に開院した、全国自治体初の粒子線治療施設
- 陽子線及び重粒子線の2種類の粒子線治療が可能な世界初・日本唯一の施設
- 総治療実績 **10,420名**（開院～2024年3月末までの実績）

## 所在地

たつの市新宮町光都1丁目2番1号  
(アクセス)JR「相生」駅からバス35分

## 病床数

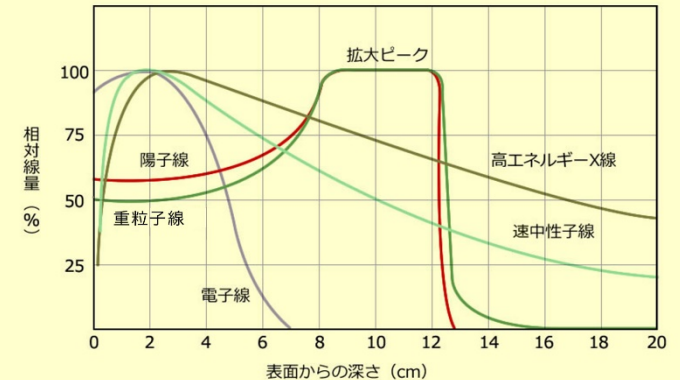
許可病床数 50床（稼働病床数 50床）



## 粒子線治療とは

- ・がんの治療法の放射線治療の一種。
- ・X線と異なり、からだの中をある程度進んだあと、急激に高いエネルギーを周囲に与え、そこで消滅するという性質を持っている。
- ➔ がん病巣部により高い量の放射線を照射することで、高い治療効果が期待、かつ副作用が低減できる。
- ・保険適用の拡大が進んでいる。

各種放射線の線量分布

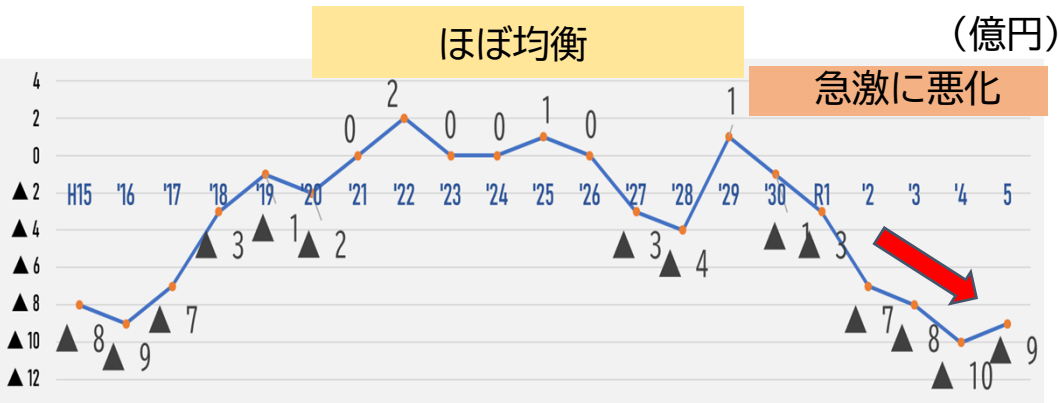


# 02 兵庫県立粒子線医療センターあり方検討委員会（概要）

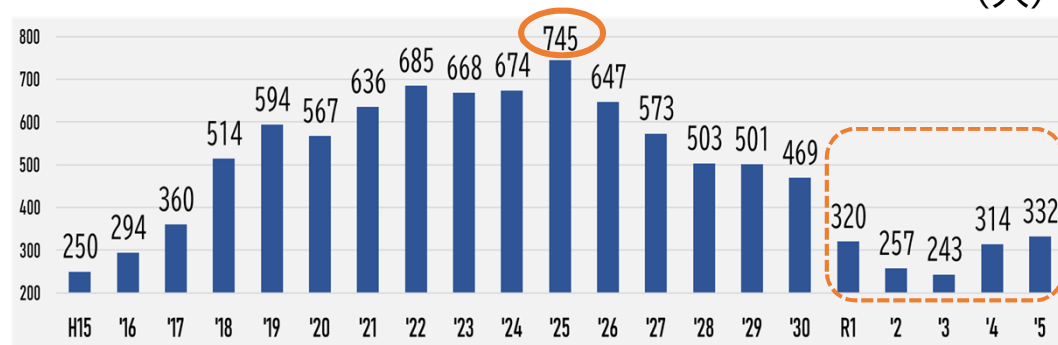
## 経営状況について

- 関西圏周辺の粒子線治療施設の新設により患者数が減少し、経営状況が悪化
  - 特に大阪重粒子線センター開設（H30）による大阪府周辺の患者減少の影響が大きい。
- 「粒子線医療センターのあり方検討委員会」を立ち上げ、赤字解消に向けた今後のあり方を検討

## ● 経常損益の推移



## ● 実患者数の推移



## あり方検討委員会

区分	委員	略歴・専門分野
医療関係	辻井 博彦	元国立研究開発法人QST病院長
学識経験	佐々木 良平	神戸大学医学部附属病院副病院長 同・放射線腫瘍科教授
経営	小林 大介	富山大学附属病院地域医療総合支援 学講座客員准教授 兵庫県地域医療構想アドバイザー
患者代表	古川 宗	ひょうごがん患者連絡会 会長
病院関係	沖本 智昭	県立粒子線医療センター院長

## ● 委員会開催状況

区分	日程	議論の内容
第1回	6月4日	患者動向、施設老朽化の状況説明 検討すべき課題、論点の整理
第2回	9月2日	粒子線医療センターの経営対策について の意見交換・議論等



## 02 兵庫県立粒子線医療センターあり方検討委員会（概要）

### 1 施設・設備の老朽化の状況

- ・大規模な設備改修や、施設の老朽化対策を行わなければ、今の施設を使い続けることはできない。

#### 真空管の製造中止

電圧を増幅するための真空管が平成30年に製造中止となっており、現在は限られた在庫をローテーションしながら使用。



#### 保守契約期限

粒子線治療装置の保守契約は令和9年度末までとなっており、令和10年度以降の保守契約の更新には設備改修等が必要。

### 2 粒子線医療センターの経営状況

- ・集患、収益の強化、稼働率に応じた人員配置の見直しにより、新たに年間158百万円の収支改善を見込む。
- ・しかしながら、赤字幅は年919百万円（R5経常損益）であり、赤字解消に至らず抜本的な改善が必要。

#### 委員意見

- ・今後の人口減や、医療材料の値上がりを踏まえると、赤字解消は厳しい。
- ・施設の継続にはかなりの投資が必要になることを危惧。施設規模と集患状況が見合っていない中で、建替・移転・廃止の可能性も踏まえあり方を検討する必要があるのではないか。

第3回委員会（12月20日予定）では中長期的なあり方について意見交換